

あさひ燦々

理念 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します 第30号 (2019.6月号)

巻頭言



新病院のご挨拶

独立行政法人 労働者健康安全機構 旭ろうさい病院
病院長 宇佐美 郁治

旭労災病院は瀬戸地域で多く発生したじん肺の患者さんの診断・治療・療養のために昭和35年に設立され、その後、病院周辺の宅地化に伴って一般病院へ転換しました。この度、老朽化した施設の建て替え工事を行い、大変光栄なことに令和元年5月1日に新元号とともに新病院で診療を開始しました。病院の機能は効率的になり、療養環境が整い、最新鋭の医療機器で安全な医療を受けていただけます。引き続き、約1年をかけて旧病院の取り壊しを行い駐車場の整備・外構工事を行います。患者さん方にはご不便をおかけし、ご迷惑をおかけしますがご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

当院は、地域貢献と政策医療が使命と考えています。高齢化が進むなかで、地域で住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が重要となってきます。その中で当院は、専門的な治療、検査、手術などを行う急性期医療を担い、地域医療を通じて地域貢献をいたします。ま

た、長年のじん肺の診療で培ってきました働く方の健康と職業生活を守る「勤労者医療」の考え方をさらに進め、病気の治療をしながら就労するという「両立支援」に力を入れてきます。

尚、両立支援とは、癌などの病気の治療をしながら仕事を続けたい、病気のことを会社に上手く伝えられない、病気の治療と仕事が両立できるか不安など、いろいろな悩みに対して両立支援促進員がそれぞれのステップに応じた助言・支援を行います。他院で治療を受けておられる方でもお気軽に当院の両立支援促進員にご相談ください。

新病院を契機に当院の理念・基本方針を見直しました。当院の理念は「地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します。」です。また、基本方針は「1. 患者さんの権利を尊重して、患者さん中心の医療を実践します。」「2. 多職種と幅広く連携し、地域医療の充実に努めます。」「3. 地域の中核病院として急性期医療・救急医療の充実に努めます。」「4. 慈愛の心に満ちた医療人を

育成します。」「5. 一般医用を基盤とした勤労者医療を積極的に実践します。」「6. 働き甲斐のある職場づくりをし、健全な病院運営を行います。」の6項目です。

皆様に身近に感じていただける

病院になりたいと思っております。これまでも増して皆様方のご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



令和2年6月グランドオープンイメージ図

特 集

「新生「旭ろうさい病院」診療開始について」

旭ろうさい病院事務局長 関根 久芳

独立行政法人労働者健康安全機構旭ろうさい病院は、厚生労働省が所管する法人であり、「地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します」の理念の下、尾張東部医療圏の急性期病院として地域医療に貢献してまいりました。

当院は昭和35年6月の開院から建物は59年が経過し、令和元年5月1日の新元号と共に新病院での運営を開始しました。現在、旧病院の取り壊しを開始し、その跡地は患者用の駐車場となり丘陵地で高低差のある飛び地の駐車場から病院

建物入口までをフラット化し、令和2年6月にグランドオープンする計画となっています。

それでは、新築の香りが漂う「旭ろうさい病院」の診療機能について簡単にご紹介させていただきます。

まず初めに、新病院の建物の概要です。敷地面積50,729㎡、建物延床面積22,176㎡（旧16,614㎡）、建築面積6,664㎡（旧8,248㎡）、構造は鉄骨造、建物規模は地上5階建て地下1階の26.86mの高さで、

病床数は従前と変わらず 250 床と
なっています。

また、診療科については、17 診
療科から 21 診療科（内科、消化器
内科、循環器内科、呼吸器内科、糖
尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経
内科、精神科、小児科、外科、整形
外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器
科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リ
ハビリテーション科、放射線科、麻
酔科、病理診断科）に変更し診療科
の充実に努めています。

次に、外来部門の紹介です。1 階
の外来待合ホール（写真 1）は、左
側が内科系、右側が外科系とし 130
席の座席を設置しました。患者の受
診のための受付、診療、並びに検査
等については、効率良くワンフロア
完結できるよう動線を短くするこ
とで利便性の向上を図りました。



写真 1 (外来待合ホール)

2 階フロアにおいては、外来化学
療法ベッドを 8 床から 14 床へと
6 床増床し、人工透析のベッドも 10
床から 13 床へ 3 床を増床しました。
手術室についても、全て新しい手
術・麻酔科機器に更新し、今まで以
上に緊急手術に対して対応が可能
であり更なる機能の充実に努めるこ
とができました。

続きまして、入院部門のご紹介で
す。新病院では 2 西病棟（主に手術
を受ける患者）、3 東病棟（呼吸器
内科、内科、腎臓内科、神経内科、
皮膚科、婦人科等）、3 西病棟（小
児科から高齢者まで幅広い年齢層
の方）、4 東病棟（整形外科、消化

器内科等）及び 4 西病棟（糖尿病や
白内障など）の全 5 病棟となってい
ます。2025 年の日本は、団塊の世
代が 75 歳を超えて後期高齢者とな
り、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上、
5 人に 1 人が 75 歳以上という、人
類が経験したことのない「超・高齢
社会」を迎えると言われていま
す。これが 2025 年問題です。この地
域においても高齢化が進んでいるこ
とから、当院でも入院される患者の
中で比較的軽症、転院待ち、その他
に糖尿病教育入院など看護師の投
入よりも薬剤師や管理栄養士を導
入した方が良い病気や状態の患者
を診ていくことを一部病棟で想定
しております。

それから、本年 8 月 1 日から ICU
（集中治療室）病棟 4 床（写真 2）
を新設し、重症患者への 24 時間体
制で高度医療の提供や集中的に看
護を行うために院内に設置してお
ります。地域の皆様にこれまで以上
に充実した救急医療を提供するこ
とが可能となります。



写真 2 (ICU (集中治療室))

病室については、重症 2 人室△10
床減、2 人室△8 床減、6 人室△24
床減とし、一方、重症 1 人室 11 床
増、1 人室 7 床増、4 人室 20 床増を
図り、以前に比べて有料室につい
ては合計で 72 床増床いたしました。
それに加え各フロアにデイルーム
（写真 3）が新しくなったことによ
り眺めもとても良い空間となっ
ており、患者家族の方、お見舞いの方
などとの談話に使用することがで

き、個室の充実とダイルールの整備により患者のアメニティ向上を図ることが可能となりました。



写真3 (ダイルール)

続きまして、新病院開設に併せて整備した機器のご紹介をいたします。主な高額機器は、1.5テスラのMRI (写真4)、そして16列CTを更新し80列CT (写真5)を整備し、現有機器の80列CTと合わせて2台体制となりました。また、フラットパネル付き一般撮影装置 (写真6) 3台と血管撮影装置 (写真7) 1台も整備しております。これにより、撮影時間も短縮され、なおかつ、最

新の機器で精度の高い診療が可能となりました。

最後に、今後、2020年6月のグランドオープンに向け、正面玄関周辺の整備、患者用駐車場の整備、並びに救急車及びあさび一号等のバスの受け入れもスムーズにすることで、病院を利用する皆様の利便性の更なる向上に努めてまいります。

また、新病院での運営を開始するにあたっては、病院名も「旭労災病院」から「旭ろうさい病院」へひらがな表記に変更し、どなたでも受診していただけるコンパクトで骨太の病院として、地域の皆様が安心して暮らすことができるよう職員一丸となってレベルの高い医療を提供してまいりますので是非ご期待ください。



写真4 (1.5テスラMRI)

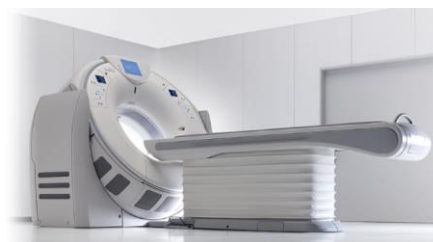


写真5 (80列CT)



写真6 (一般撮影装置)



写真7 (血管撮影装置)

教えてドクターQ&A

【質問】

私には一人暮らしの母親（77歳）がおります。元来しっかりとした性格でしたが、先日帰省した時に何かおかしいと感じました。きれい好きのはずでしたが、本棚が整頓されていなかったり、会話が噛み合わず何度も同じことを話したり、最近のニュースについていけずはぐらかしたりしています。認知症を心配していますがどうしたらよいのでしょうか。（40代男性）

まずは内科を受診しましょう。認知症かどうかの判断も大事で、甲状腺機能低下症・うつ病など、薬で治る内科の病気もあります。

次には頭のCT検査が大事です。脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、などの手術をすれば良くなる病気が鑑別できます。また血液検査などを行って、前述の病気以外のもの、例えばVitB12欠乏、低血糖、腎不全、肝不全などの代謝疾患を鑑別することも必要です。

さてそこまで行って認知症と診断されたら、どうすれば良いのでしょうか？現在日本で最も多い認知症はアルツハイマー型認知症（AD）です。脳神経細胞にβアミロイドという物質が沈着して発病する病気ですが、その原因は不明のままに根本的治療はありません。次に多いのはレビー小体型認知症（LBD）と多発脳梗塞性認知症（MID）です。LBDは幻覚（特に幻視）が多く見られる、パーキンソン症候がよく合併する、という特徴があります。MIDは脳梗塞の後遺症として現れたり、無症候性脳梗塞（隠れ脳梗塞）を繰り返すことにより起こって来たりするものです。いずれも根本的治療法はありません。

現在、認知症に使用するお薬は数種類ありますが、いずれも進行を遅くする（どれくらいかは不明）という効果しかありません。人によっては全く効果が見られない場合もあります。それよりも大事なことは、普段の生活で患者さん本人に『何かしてもらおう』ことです。認知症の進行の早い人は、おおむね『日中何もせず』ボーっとしている人です。若いころの趣味を再度やってもらおうとか、孫たちと一緒にゲーム（トランプなど）をやる、買い物に付き合ってもらおう、など何でも良いと思います。私個人の考えですが、脳細胞も手足の筋肉と一緒に使わなければ衰えると思っています。『何かをする』ことが最も重要と考え、私の認知症外来でも患者さんの家族には「何でもいいから仕事などさせて下さい。」と指導しています。患者さん自身が脳細胞を使うことが、最も進行を遅らせるのではと思っています。

（神経内科部長 長江 雄二）



～新病院内覧会について～

平成31年4月21日（日）に新病院の内覧会を行いました。午前には近隣の開業医約70名の皆様へ、当院の各診療科部長が診療科の特性等の紹介を行いました。

午後には地域住民の皆さんへ普段あまり見ることのできない、手術室や放射線機器等を中心に院内見学していただきました。

当日は、天候にも恵まれ、予想を大幅に上回る1,000人近い皆様にご来院いただき大盛況であり、当院に期待する沢山の声を頂戴し、職員一同とても感激いたしました。

ご来院いただいた皆様、本当にありがとうございました。



～新人職員入職について～

平成31年4月1日（月）より本年度の新規採用職員が入職しました。

本年度は新病院のICU開設の関係もあり、例年より多い、看護師30名、診療放射線技師1名、理学療法士1名、臨床検査技師1名の計33名のこれからの病院を支える貴重な正規職員が採用となりました。



～市民公開講座について～

令和元年6月8日（土）に新病院5階会議室で当院泌尿器科副部長による「あなたの頻尿スバッ！と解決！？」の公開講座を行い、多数の市民の皆様にご参加頂きました。次回は7月13日（土）10時より総合内科部長による「医者だけが知っている本当に効果のある健康情報・健康食品を見極める裏技を教えます！」を行います。ぜひご参加ください。

【編集後記】

最近の出来事としては、即位後初めての地方公務として天皇皇后両陛下は6月2日、愛知県尾張旭市内の森林公園で「全国植樹祭」の式典に出席されました。当院の宇佐美院長も出席いたしました。県内外から招待された約1万人を前に「健全な森を次世代のためにつくっていくことは、私たちに課せられた大切な使命である」とお言葉を述べられております。移動先の沿道で、老若男女問わず両陛下の姿を一目見ようと多くの人が集まり歓声に沸いていたことが未だに記憶に残っております。次の愛知県での開催が47年後になるかは未定ですが・・・素晴らしい未来であることを期待します。

（事務局長）